

- 21世紀 心の時代に
誰もが必要とされる孤独とは無縁の社会に
吉藤オリイ……………1
- 道徳授業 私の実践
・ChatGPTを教室のメンバーとして「使う」
近野洋平……………4
・生徒の問いを追求し、共に創る授業
橋本舞佳……………6
- SDGs×道徳
日本の使い捨て傘をゼロに。
傘のシェアリングサービス「アイカサ」…8
- どうなるこれからの道徳授業……………10

道徳 ジャーナル

現代的な課題 情報教育特集号

21世紀
心の時代に

誰もが必要とされる

孤独とは無縁の社会に

分身ロボット OriHime

私の運営するカフェでは、「OriHime」という「分身ロボット」が働いています。病気や障害などのため外へ出られない人が、OriHimeのパイロットとなり、インターネットを介した遠隔操作で、接客を行います。



カフェには、歩行・運搬・接客のできるロボットと、高さ二十三センチメートルの、卓上で接客だけ行うロボットがいます。

OriHimeにはカメラとマイクとスピーカーがついているので、パイロットはお客さんの顔を見ながら、リアルタイムに会話することができます。

これによって、今まで体を動かして働けなかった人が、働けるようになります。働くことで、人の役に立てるようになるのです。

障害があると、人に助けられることが多く、常に「ありがとう」を言います。しかし反対にお礼を言われることはどうしても少なくなり、いつのまにか助けられることを申し訳なく思い、孤独を感じるようになります。

しかし人の役に立つと「ありがとう」を言われます。すると「孤独感」が解消されるのです。パイロットにはとても喜んでもらっています。



ロボットコミュニケーター

吉藤オリイ

人と人をつなぐ

OriHimeの名は、七夕伝説の「織姫」からとっています。離れていて簡単には会えないこと象徴の物語ですね。

私が分身ロボットを開発したきっかけは、小中学生時代の不登校にあります。誰ともつながりがなく誰から必要とされないと思う「孤独感」にさいなまれていたとき、私はできるなら学校へ戻りたいと思っていました。かつて自分が必要とされ、自分の「居場所」を実感できたところへ行く。自分

会いたい人に会う、行きたいところへ行く。自分にはできなくても、自分の分身ならその思いをかなえられます。

天の川を一瞬で渡ることができないけれど、もし分身が向こう岸にいるならば、彦星と会えるわけです。分身ロボットが、そんな「人と人をつなぐもの」になればいいと願い、OriHimeと名付けました。

コミュニケーションのしやすさ

OriHimeを開発するにあたって、デザインもこだわった箇所の一つです。OriHimeは、目が二つあるだけのシンプルな顔です。全体の輪郭も、丸っこくてなだらかです。人の想像力を信じ、



このデザインにしました。外見が単純だからこそ、その向こう側にいるパイロットの存在が、伝わりやすいと思うのです。

人は、ぬいぐるみがひっくり返れば、かわいそうだと思います。無表情な面をつけた能楽師の所作から、喜怒哀楽を感じます。私たちは想像することで、そこに自分の見たいものを見ているわけです。

また、漫画のキャラクターの多くは、鼻の穴やし

わがいちいち描かれていません。顔面の多すぎる情報を、フィルターにかけてそぎ落とすことで、むしろ表情をつかみ取りやすくなり、親しみも増すと思います。

私自身、かつては生身の人間と面と向かって話るのが苦手でした。そうした人でも、OriHimeが相手なら、カフェで気楽に過ごせるのではないのでしょうか。

人は人を必要とする

OriHimeを使うのは、障害のある人に限りません。目的の場へ行くことができない人のための、テレワークツールとしての活用も増えてきています。

在宅勤務が多くなってきた昨今、人と話すことが好きな人や、対面で仕事をしたい人にとっては、人の存在を感じられるテレワークはうれしいものです。ある大手企業では、OriHimeが受付をし、OriHimeが来客者を打ち合わせ場所まで案内しています。

私たちもこれから老後を迎えたり、体調を崩したりして、将来寝たきりになることも考えられます。そんなときでも、OriHimeを介して人とつながり続けることで、孤独を回避することができるのです。

テクノロジーは人の生活を便利にします。現在

多方面で、情報化、自動化が進み、人が人を直接頼らなくても済むことが多くなっています。では、人を必要としない社会が、人類の最終「ゴール」となるのでしょうか。私はそうは思いません。人を必要としない社会は誰にも必要とされない社会です。

私が引きこもっていたとき、私の折った折り紙が友人の手に渡り、喜ばれ、「ありがとう」と言ってもらえたことがあります。そのときは本当にうれしく、生きる理由を見いだすことができました。

人を必要とし、人から必要とされる。この関係が続いてこそ、人が「孤独」にならない健全な社会が成り立つと思います。Orihimeが遠隔対人ツールとして、多くの人の老後にも役立つといいなと思います。

リアクションが子どもを育てる

インターネットの発達で、知識を得る手段は多岐にわたりに、容易になっています。知識の点で「年の功」は薄れているといえるでしょう。もはや私たちが次の世代へ与えるのは、知識ではない時代に入ったのかもしれません。

これからの先生は、何かを教える人というよりは、クラスのリーダー「学級委員長」的な存在になっていくのではないのでしょうか。

そんな先生に必要なもの、それは子どもに対する「リアクション」だと私は思っています。子どもの行

動や発言に対して、適切で分かりやすいリアクションをする。驚き、笑い、感心し、励まし、たしなめる……。

子どもが友人や家族にサプライズプレゼントをするのも、先生にいたずらを仕掛けるのも、派手なリアクションを期待するからだと思うのです。いたずらが良い悪いは別にして、これらはクリエイティブな行為といえます。子どもが自発的に何かしたいと思う源は、リアクションという報酬にあるのではないのでしょうか。

私は中学時代、頻繁に保健室に通っていました。保健室の先生が私のことをよく見てくれて、心地よいリアクションを返してくれたからです。

そして私は折り紙を折りました。人にプレゼントしたときの、お礼や賞賛といったリアクションを求めたのです。

リアクションを得ることで、人は次の目標ができます。わくわくし、活力を持って主体的に生きられると思うのです。それが人から必要とされることを実感し、自分の存在価値を見いだすことにつながると思います。

人を助けるために学ぶ

子どもたちに何のために学ぶのかと問われたら、私は、「人を助けるため」と答えます。今後どんなテクノロジーが発達しても、人は万能にはなれませ

ん。それぞれ得意なことも役割も違います。だからこそ、自分は人に助けられ、自分が人を助けて生きるわけです。

世の中は、まだまだ未完成です。子どもたちがこれから取り組むべき課題も余地も、たくさん残されています。

私は出会いと憧れが、人生をつくると思っています。よい出会いと明快な目標を持って学ぶことで選

択肢が広がり、助けてあげられる人数も増えます。そのためにも、先生がよいリアクションを駆使して、子どもが自分の役目を見つける手伝いをしてあげられたらいいなと思います。

子どもたち同士でも、よいリアクションを出し合えると、モチベーションが上がるでしょう。よいリアクションの飛び交う環境があれば、何事にも挑戦する人が増えると思っています。

今、子どもたちにタブレットPCが普及し、ICT教育が本格的になってきました。アプリの力を存分に使って、子どもたちが主役になる学びの場がつかれるといいですね。

先生によっては苦手意識から敬遠している人もいます。そんなときは、得意な子どもにも教えてもらうポジションをとってもよいのではないのでしょうか。子どもの役割をつくることに、とても価値があると、私は思います。

(取材・文)入澤宣幸 写真提供/オリイ研究所

道徳授業私の実践

ChatGPTを

教室のメンバーとして「使う」



山形県高島町立
和田小学校教諭

近野 洋平

二〇二三年二月、たまたま見ていた

ネットニュースに「ChatGPT、史上最速でアクティブユーザー数一億人に到達か」という見出しがありました。

そこで実際に使ってみたところ、間違いないと社会に大きな影響を与える技術であることを確信し衝撃を受けました。

そして現在は、「生成AIを使うか？使わないか？」ではなく、「生成AIを使わざるを得ない時代において、その技術をどう使っていくか？」という段階に入っています。

ChatGPTは実際に物事を「理解」しているわけではなく、どの単語

が特定の単語の後に続く可能性が高い

のかを認識しています。そのため、出力する回答は基本的に「予測」に過ぎません。回答に誤りや納得できない内容が含まれることもあります。

私はこの部分に、「人間らしさ」を感じました。人間も手元にある経験や知識を頼りにして解決策を模索します。そう考えたときに「授業の中でChatGPTを教室のメンバーとして活用すれば、生成AIとの向き合い方に加え、生成AIとのやり取りを通して新しい視点や考えが生まれるのではないか」という仮説が浮かびました。

そこで、人間が開発した「人工物」であるという点を子どもたちに伝えたいと、道徳の授業で、「教室のメンバーとしてChatGPTを『使う』」という実践を行いました。

教材について

○**主題名** 正しいと判断したことは自信を持って行うこと

○**内容項目** 善悪の判断、自律、自由と責任

○**教材名** 「言い出せなくて」(『新・みんなのどうとく』3『学研』)

○**ねらい** 人の考え、生成AIの回答を踏まえ、最終的に自分が正しいと判断したことは自信を持って行おうとする心情を育てる。

授業の概要

【導入】

T: 今日の授業には、ChatGPTさんにも参加してもらいます。以前ChatGPTを見たときに、使ってみたいなと思った人？

C: (ほとんどの児童が手を挙げた)

T: どうして使ってみたいと思った？

C: なんでも答えてくれそうだから。

C: 便利そうだから。

T: みんなは「学習」でChatGPTを、どんなことに使ってみたい？

ノ: 一つ書けたら教えてください。

C: 算数の問題を出してもらいたい。

C: 野菜の育て方を教えてください。

T: 普段の「生活」でChatGPTを使うとしたら、どんな風を使う？

ノ: 一つ書けたら教えてください。

C: 料理の作り方を教えてください。

C: 足を速くする方法を教えてください。

T: ここまでChatGPT、つまり、

Aーはどんなことに使えそうかということを考えてみました。では、もしみんなが自由にAーを使えるとして、Aーに頼る人？ 頼らない人？

C…(挙手がおよそ半々に分かれた)

【展開】

T…次は、教科書を読みますね。主人公になったつもりで聞いてください。

T…(「学校に行く足取りが重くなった。」「まで読んだら」教科書を閉じます。

T…かずやさん、悩んでいましたね。友達同士のトラブルって、なんだかお腹が重たくなる感じがしない？ そう

いう経験ある人？ うんうん、先生もありません。友達との関係に悩んだとき、

ChatGPTさんは何かアドバイスをくれるかな？ 相談してみますね。

入力した文章

友達に嫌なあだ名で呼ばれて困っています。でも嫌だと言いつせません。周りの人たちも、同じあだ名で呼び始めました。だんだん学校に行くのが嫌になってきました。僕はどつすればいい？

ChatGPTの回答(原文ママ)

友達に嫌なあだ名で呼ばれて困っている気持ちは、とても分かります。そ

の問題を解決するために、次のステップを試してみることができますよ。

優しく話してみる…友達に、そのあだ名が嫌だと感じていることを伝えてみましょう。ケンカを売るつもりじゃないんだけど、そのあだ名が気に入らないことを伝えることが大切だよ。

先生や大人に話す…学校の先生やお父さん、お母さんに相談してみるのもいい考えだよ。みんなが楽しく過ごせるように手助けしてくれるかもしれない。

自分を大切に…自分を大切にすることも大事だよ。あだ名のせいで嫌な気持ちになるかもしれないけど、好きなことをする時間を作ったり、素敵な友達と遊んだりして元気をだしてみよう。

自分を守ることはとても大切です。どうしても嫌なことは言わないままでいるのではなく、解決策を見つけるために試してみてくださいね。

C…こんなに詳しく答えてくれるんだ。

C…解決方法も一つじゃないんだ。

T…この物語にChatGPTさんがいたらかずやは頼っていたかな？

C…頼ってた。

C…頼ってなかったと思う。

T…じゃあ「自分が」友達との関係に悩んだとき、ChatGPTに頼る？ それとも頼らない？

C…(三割ほどが「頼る」、七割ほどが「頼らない」に挙手した)

T…どうしてそう思いましたか？ 理由をノートに一行で書いたら持ってきてください。(持ってきたら板書させ、後ほど全体で共有した)

C…私は頼ります。いろいろ解決策を教えてください。

C…まずお父さんやお母さんに聞いて、解決できなかったらAーに相談する。

C…私は頼りません。だってAーに頼ったら、人生でずっとAーに頼ってしまつかもしれないからです。

【終末】

T…Aーの回答を「そうだな」と思っ

たのが「違うな」と思っのかは、最終的には誰が判断するの？

C…自分たち。

T…そう、自分だよ。みんなの発表を聞いていて、「頼る」ではなくて、「使つ」という意識でAーとつき合っ

ていってほしいと思いました。今日の授業の振り返りを書きます。

おわりに

授業後、ある子が次のような考えを発表してくれました。

人間にできてAーにできないことは個性を持つことです。人間は一人一人の個性があるけれど、Aーは人の手によって作り出された物なので、個性を持ってなくて。(以下略)

人工物であるAーと人間との違いを「個性」という視点で捉えています。

道徳科に限らず、授業では子どもたち一人一人の個性を大切にします。その授業の中に「個性のない」Aーをあえて登場させることで、「自分だつたらどうするだろう」と、自分自身の個性に向き合いやすくなったと感じます。

道徳科の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことです。Aーはその道徳性に少なからず影響を与える技術だと思われまふ。Aーの判断も踏まえた上で「自分ならどうする」と考える機会は、今後を生きる子どもたちにとって必要な時間なのではないでしょうか。

(このの ようへい)

道徳授業 私の実践

生徒の問いを追求し、共に創る授業

はじめに

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』は「道徳科の特質を生かした学習指導の展開」の一節で、「問題意識」という言葉を繰り返し用いている。生徒が問題意識を持って学習に臨むことは、道徳科における主体的な学びの姿にほかならない。道徳的価値を自分との関わりで理解し、生き方についての考えを深めていく学習を実現する上で、生徒の問いは欠くことのできないものと

私は捉えている。

そこで、教材に対する生徒の問いを生かした授業の実践を重ねている。教材読後、「今日はどんなことを考えたいか」と投げかけ、生徒は問いを創る。その問題意識から学習課題となる問いをクラス全体で決め、追求していく。当然、授業者は明確な指導観を持って授業に臨むが、実際の授業は生徒の思考に寄り添い、学習課題とならなかった問いも生かして、授業を組み立てていく。

しかしそのような授業は、一朝一夕にはうまくいかない。

教師の想定と生徒の問題意識のずれ

私の授業づくりは、生徒が教材からどのような問いを持つのかを想定することから始まる。

教材「ネパールのビール」（『新・中学生の道徳 明日への扉 1』学研）の授業で私が想定した生徒の問いは、次であった。

○「私」が深く反省したことは何だろうか。

○「私」はどんな気持ちでチエトリ君の帰りを待っていたのだろう。

千葉県柏市立
大津ヶ丘中学校教諭

橋本 舞佳



○チエトリ君はどうしてそこまでできたのだろう。

しかし実際の授業で生徒が考えた問いは次である。

●チエトリ君はなぜ四つも山を越えてビールを買いに行ったのか。

●なぜ、チエトリ君はそこまでしたのか。

●チエトリ君は、なぜ大金を手にしても逃げずに約束を果たしたのか。

●チエトリ君のよれよれの姿を見て「私」はどっと思ったのか。

●「私」はどうしてそんなに後悔したのか。

「私」に対する問いもあげられているが、生徒たちがこの教材で考えたいのはチエトリ君のことだったのである。

これらの問いから生徒たちが決めた学習課題は、

※帰ってきたチエトリ君の姿を見て、「私」が思ったことは何だろうか。

となった。「私」の涙の意味に迫ることを授業のねらいとしていた授業者の私は、「私」を考えていくことに重きを置き、生徒のチエトリ君への問題意識を十分に想定することができなかった。その結果、生徒たちが知りたかつ

たチエトリ君の思いに迫ることができず、その生き方に心を動かされたらう「私」の涙の追求は不十分となった。

この教材の出典は、「大人が読んで泣く話」としてのエッセイと聞く。それは大人の読者が「私」に自我関与しやすいからだろう。しかし、生徒が自我関与したのは、自分たちに歳が近いチエトリ君だった。生徒の問題意識を大事にすると言いながら、授業者の解釈や思いにこだわってしまったことを反省した。

改めて生徒の問いを追求する

この反省の後、再度授業をする機会を得た。そこで、生徒のチエトリ君への問いを大事にし、彼の生き方を考えていくことで、泣いた「私」の思いに迫ることを心がけた。

○主題名 よりよい生き方に変わる時

○内容項目 よりよく生きる喜び

○ねらい チエトリ君の生き方と

「私」の涙の意味を対比して考えることを通して、人間がよりよく生きようとする時は、自身の弱さを正

面から受け止めると共に、こうありたいと切に願う時だということに気づき、よりよい生き方を志向しようとする道徳的心情を育てる。

○範読後、生徒の問い創り

a どうして大人はチエトリ君を疑うのか。

b なぜ大人はそんなにビールにこだわるの。

c チエトリ君は、どうしてそんなに誠実な生き方ができたのか。

d 「私」がいろいろ反省したことの中には、自分の生き方に対する反省もあつたのではないか。それは何か。

●学習課題

「私」がいろいろ反省したことは？

○主な発問と生徒の反応

① 「私」は二回目のビールをどんな気持ちで頼んだのだろうか。

※発問の意図：問い創りの発言bを生かした、人間理解に迫る問い。

・チエトリ君から言ってくれたから。

・チエトリ君に甘えた。現地の子だし大丈夫と、軽く考えていたから。

・ビールが飲みたい気持ちだけ。チエトリ君のことは考えていないから。

② 一回目に頼まれた時、どうしてチエ

トリ君はビールを五本買って来たのだろうか。四本と買ってお金を渡されたのだから、釣銭をごまかすこともできたのではないか。

※発問の意図：問い創りの発言cを生かした、チエトリ君の生き方に迫る問い。

・「私」の喜ぶ顔が見たい。それがチエトリ君にとつての喜びだから。

・自分のポリシーなのだと思う。

③ 割れたビールびんの破片と釣銭を見せて謝った時、チエトリ君はどんな気持ちだったのだろうか。

※発問の意図：生徒の発言「ポリシー、誠実な生き方」を深堀りする。

・頼まれたことに対して、やれることはやったと責任感を見せたかった。

・釣銭をごまかしたりしないってことを、分かってほしかった。

・喜ばせたかったのに、失敗しちゃったことを謝りたい。

・僕は誠実に生きたい。破片と釣銭を出して、その気持ちを形で表した。

④ 「私」がいろいろ反省したことは何だろう。

※発問の意図：学習課題に迫る問い。

・チエトリ君の生き方にはぶれがな

い。自分は、チエトリ君が帰ってこない時、疑って信じ切ることができなかったこと。

・自分は欲が優先だった。チエトリ君が大事にしている心に気付いて、自分の汚れた心を反省した。

・チエトリ君はよく生きたいと願って、自分で自分の生き方を考えている。なのに、自分はどうかの。

おわりに

道徳科の主體的な学びのために、このような生徒の問題意識から問いを創り追求する授業では、ねらいとの関連づけが難しい場合もある。また生徒の考えを深めるには、生徒の問いをどう用いるかデザインし、さらに問い返す教師の力量も要する。しかし、第一に、目の前の生徒が持った問題意識を軸に、共に考えていこうとする教師の姿勢を大切にしたいと考えている。

道徳科の内容は、生徒と教師が共に考え、語り合う、共通の課題である。生徒と共に創る、このような授業を重ねていきたい。

(はしもと まいか)

日本の使い捨て傘 をゼロに。

傘のシェアリングサービス
「アイカサ」

日本のビニール傘消費量は？

雨の日の必需品といえば「傘」。
長傘、折り畳み傘、ビニール傘……。皆さんの家にも、きっと家族の人数分以上の本数の傘があるのではないのでしょうか。

日本は梅雨の時期もあり、年間のおよそ三分の一が雨天です。比較的雨が多い国であるため、傘が必要なお機会が多くあります。

そんな日本において、洋傘の年間消費量はおよそ一億三〇〇万本と推定されています。^{*1} そのうち六割以上はビニール傘だともいわれており、つまり、年間八〇〇万本ものビニール傘が消費されている計算になるのです。

(^{*1} 参考：日本洋傘振興協会 <https://www.jipqa.gr.jp/pages/faq>)

ビニール傘の課題

ビニール傘は、安価で手軽に購入することができますが、簡単に壊れてしまったり、どこかに置き忘れたり、まだ使える状態なのにもかかわらず廃棄されているものも多く、いわゆる「使い捨て」状態になっているのが現状です。

また、鉄道や警察署などに日々多くの傘が遺失物として届けられる一方で、持ち主の元に返還される傘はごくわずか。毎年およそ一パーセント前後とな

っており、財布やスマホなどに比べ返還率が非常に悪いのも特徴です。

そして、ビニール傘一本あたりに使われるプラスチックをCO₂換算すると、一本あたり約六九二グラムのCO₂が排出されています。^{*2} これはレジ袋やペットボトルよりも多い数字です。

また、傘はプラスチックや金属、接着剤など多様な素材が使用されているため、ペットボトルのような単一素材に比べリサイクル率が非常に悪いのです。傘を使い捨てることは、環境負荷が大きく、SDGsや地球温暖化防止が叫ばれる今、傘の利用は改善していかなければならない課題の一つとなっています。

(^{*2} 参考：環境省3R原単位の算出方法 <https://www.env.go.jp/press/files/jp/19747.pdf>)

カサをシェアしよう！

そんな傘を取り巻く課題を解決する新たなライフスタイルの一つとして、私たちが考え、二〇一八年に始めたのが『傘のシェアリングサービス「アイカサ」』です。雨の日を快適にハッピーに、使い捨て傘をゼロに“を掲げています。

アイカサは、首都圏エリアを中心に全国千箇所以上の傘スポットを配置しており、いつでもスマホ一つで簡単に傘をレンタルすることができます。借りたスポットと同じスポットに返却する必要があります。

SDGs × 道徳

連載 第15回

ないため、外出先で借りて自宅のそばで返却することもでき、電車に乗る前や晴れたタイミングで傘を返却して手ぶらで移動することも可能です。



必要なときだけ傘を使い、不要になったタイミングで返却すれば、傘をどこかに置き忘れることは減るでしょう。濡れた傘を持ち歩かなくてよいので、置き忘れて廃棄される傘の減少に貢献するだけでなく、雨の日の快適な移動が実現します。

また、「雨の日がハッピーになる」ように、この思いから、傘の開発にも力を入れています。

私たちのアイデアに賛同してくれたさまざまな企業やブランドとコラボしたオリジナルデザインの傘や、熱中症対策の日傘としても活用できる晴雨兼用の傘、柄に滑り止めをつけたり先端を平らにしたりした安全設計の傘など、使いたくなるようなさまざまな工夫を施しています。強化プラスチックを使用し、強風に負けない丈夫でエコな作りにもこだわりました。

プランもいくつか設定し、ビニール傘を買うよりも節約しながら、環境にやさしい仕組みとるようにしました。

サステナブルな工夫

傘をシェアリングするだけではなく、その仕組みや作り方で、より環境にやさしくサステナブルになることを目指しています。例えば次のような取り組みを行っています。

○アイカサを置き忘れても、全国の警察署と連携し、返還される仕組みになっており、廃棄されません。

○オールプラスチックの単一素材で作られているため、リサイクルが容易です。

○傘の骨一本から取り外しができるため、壊れても修理して再利用できます。

○家庭から出た廃棄プラスチックをリサイクルして作った^{*}、より環境負荷の低い材料を使っています。(一部提供)

(*) 参考: Ziploc RECYCLE PROGRAM <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000092.000036740.html>

傘をより長く何度も使える仕組みを作ること、シェアリングの価値を高めると共に、環境負荷の軽減にも貢献したいと考えています。

新しい社会をつくりたい

日本ではもともと傘は使い捨てず、何度も修理して使ったり、お店が「番傘」として高級な傘を街の人に貸し出して「シェアリング」をしたりしていました。

現代になり、街で手軽に手に入るようになったことで、いつの間にか傘は個人が何本も所有し、愛着もなくすぐに使い捨てる文化が根付いてしまいました。

しかし、エコバッグやマイボトルを使うなど、環境に配慮した生活が浸透してきた今、傘との付き合い方も、再度見直す時がきているのではないのでしょうか。

いつか令和の子どもたちが「昔って傘を使い捨てていたの?」と驚くような時代が来るよう、傘を取り巻く新しい社会を、私たちみんなで今からつくりたいと思っています。

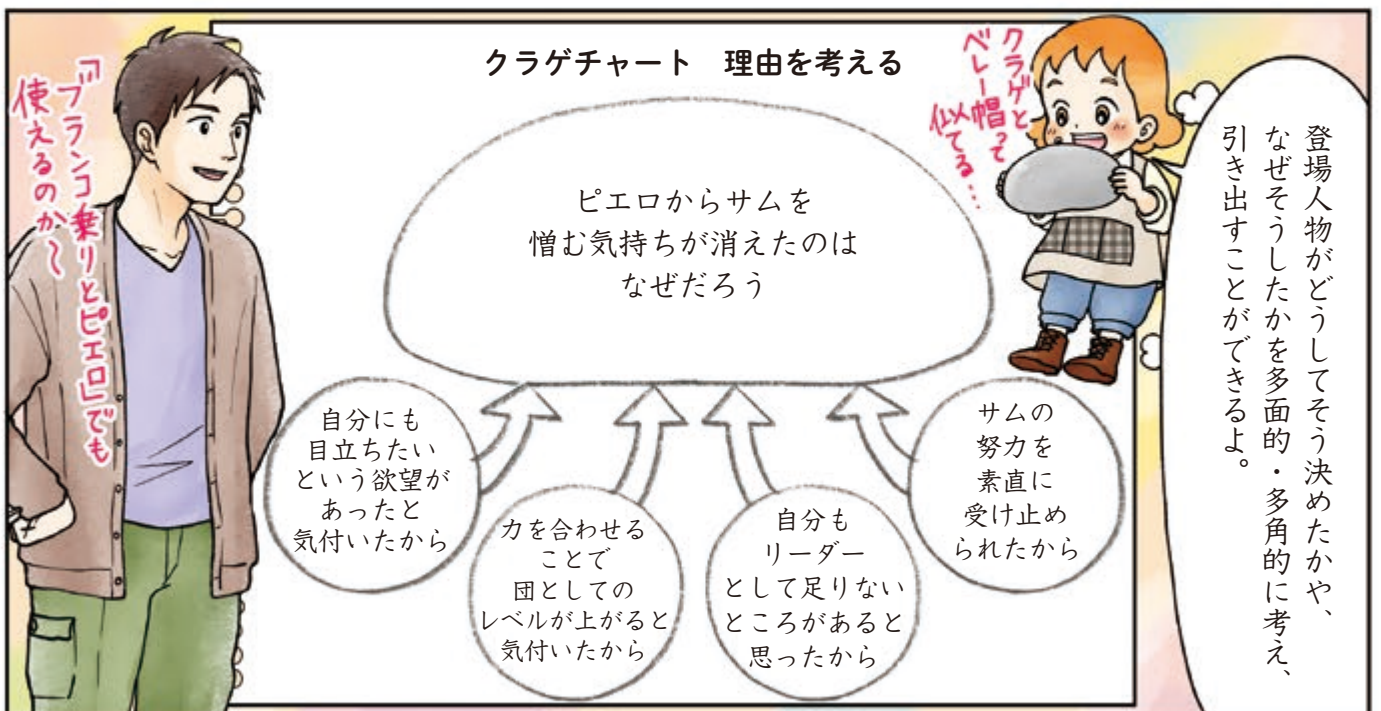
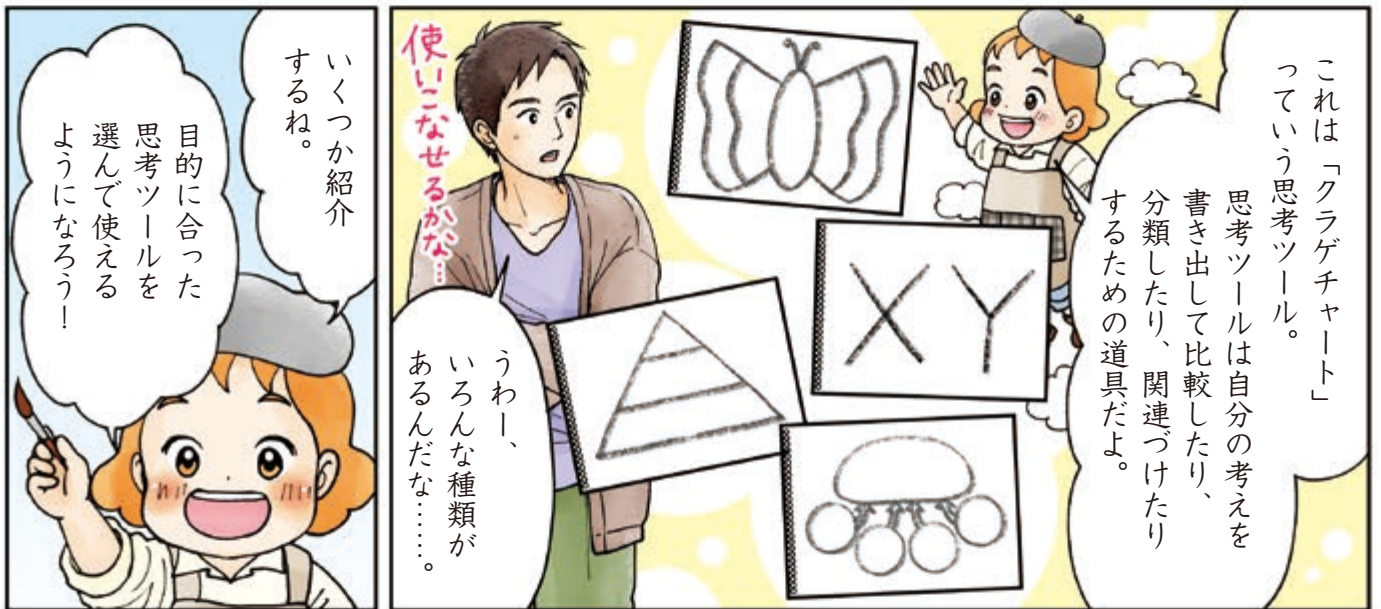
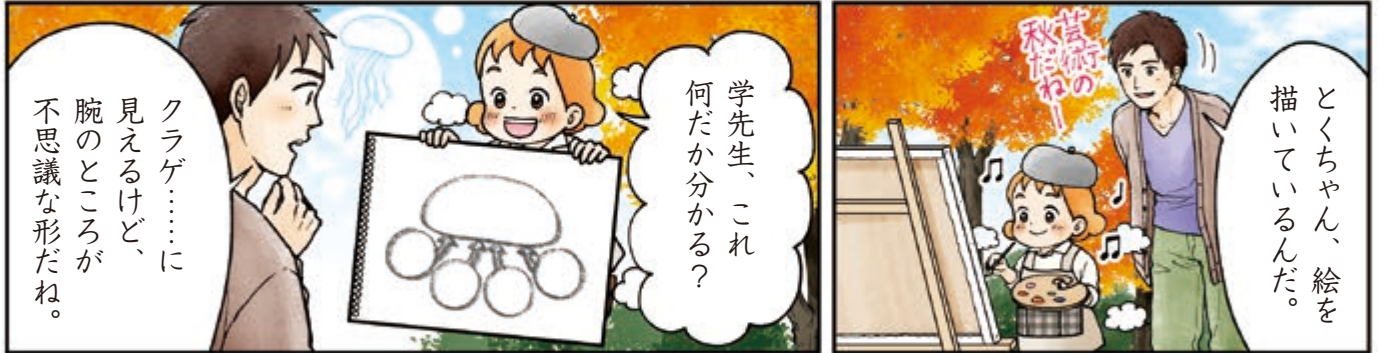
どうなるこれからの道徳授業

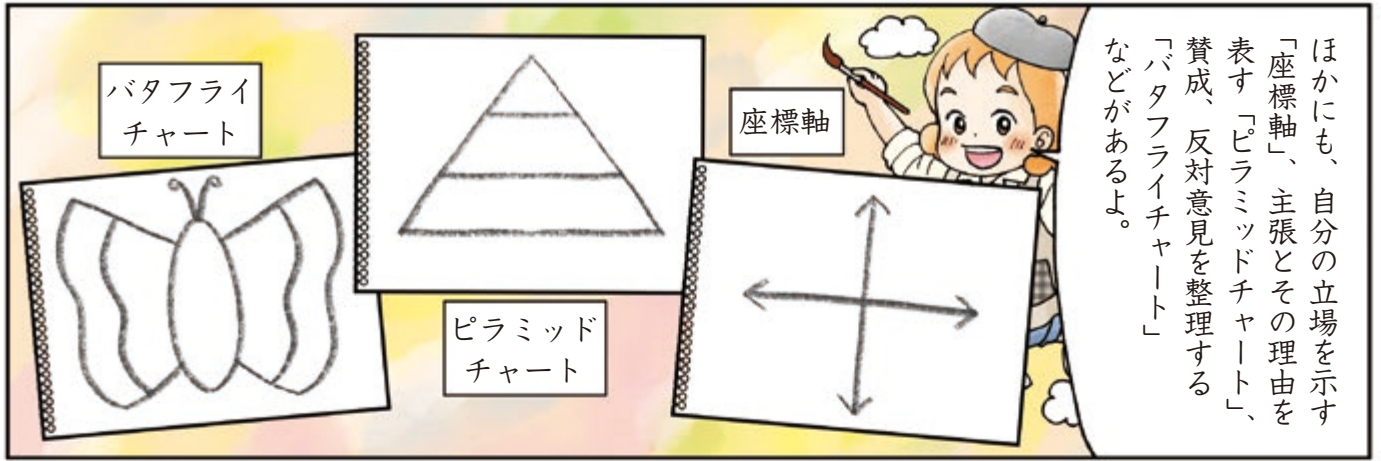
連載21回 思考ツールの活用編

とくちゃん

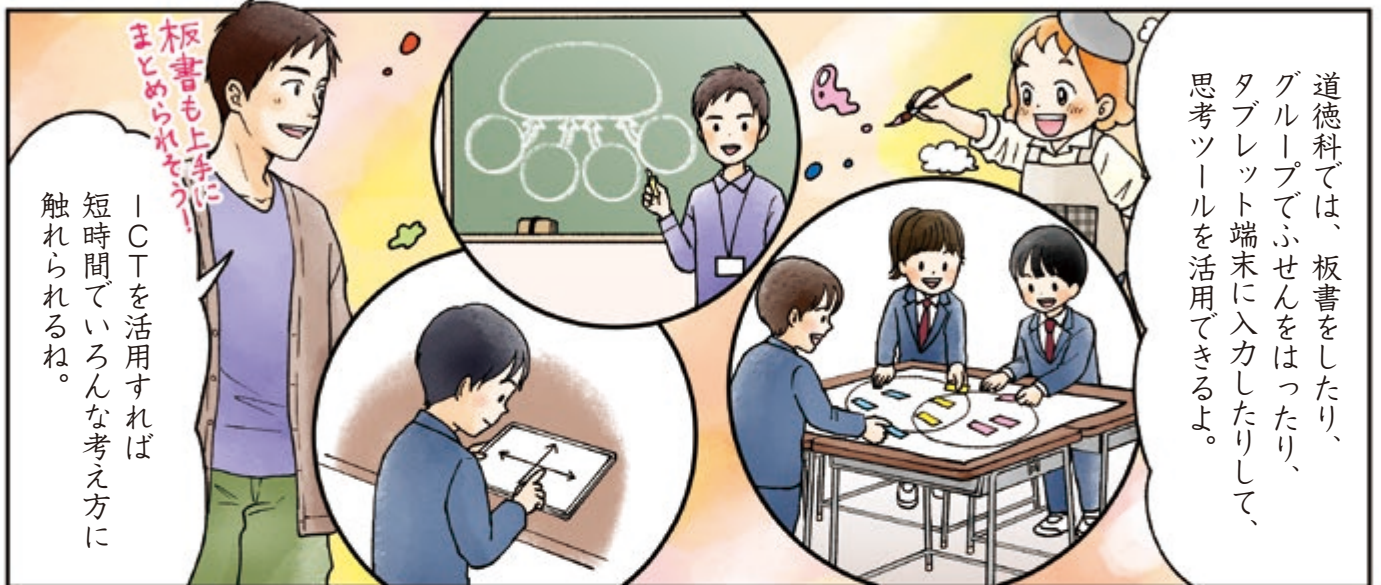
監修・廣瀬仁郎 法政大学兼任講師
マンガ・のはらあこ

学先生





ほかにも、自分の立場を示す「座標軸」、主張とその理由を表す「ピラミッドチャート」、賛成、反対意見を整理する「バタフライチャート」などがあるよ。



道徳科では、板書をしたり、グループでふせんをはったり、タブレット端末に入力したりして、思考ツールを活用できるよ。

「ICTを活用すれば短時間でいろんな考え方に触れられるね。」



思考ツールの活用方法は無限大！

それぞれの特徴を理解して、目的に合ったものを選ぶことが大切だよ。

対話や協働的な学習に取り入れてみるよ！

今回は学校行事との連携についてご紹介！

道徳ジャーナル119号 令和5年11月発行

発行所 株式会社Gakken 発行人 甲原 洋／編集人 麻生征宏

本誌のお問い合わせ先…小中教育事業部 〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8

内容については…TEL (03) 6431-1565 (編集) それ以外のことは…TEL (03) 6431-1151 (販売)

「学研 学校教育ネット」 <https://gakkokyoiku.gakken.co.jp> ●「道徳ジャーナル」のPDF版はWEBページから。

9300009231

LINE 公式アカウントのお知らせ

(株) Gakken おんたま先生

体育・保健体育や道徳、特別支援教育、ICT教育などの最新情報や、オンラインセミナーの開催情報を配信しています。

友達募集集中！



QRコードをスキャンするとLINEの友達に追加されます。